

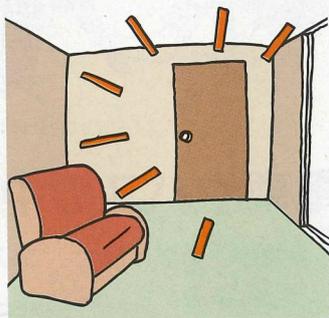
家の中の安全対策

地震による揺れで、室内の家具が倒れたり、ガラスが割れて飛び散ったりすると、家の中が危険な場所になってしまいます。倒れた家具は避難の妨げにもつながります。日頃から家具を固定するなどの安全対策を講じておきましょう。

家の中の安全対策のポイント

家の中に、家具のない安全なスペースを確保する

部屋が複数ある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめておく。難しい場合は、少しでも安全なスペースができるように配置換えする。

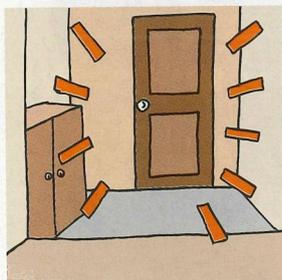


寝室や子ども・高齢者などがいる部屋には、倒れそうな家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。背の高い倒れやすい家具は置かないようにする。置く場合には必ず固定する。

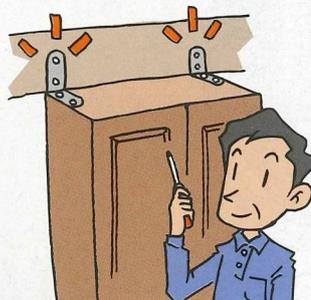


出入り口や通路にはものを置かない



いざというとき安全に避難できるように、玄関などの出入り口やその間の通路には倒れやすいものを置かない。

家具の転倒や落下を防止する



背の高い家具や重い家電製品は柱などに固定する。また、高い場所に落ちやすいものは置かない。

寝室や出入り口付近の家具を固定できない場合には

寝ている位置に家具が倒れてこないよう、向きを工夫する



倒れても机などに引っかかり、自分の上に倒れてこないように置く



倒れても出入り口が開くような位置、向きに置く



● 本棚・タンスなど

上部をL字金具で固定するか、家具の下に板などはさみ、壁面にもたれさせる。二段重ねの場合は、つなぎ目を金具で連結する。

● 照明器具

1本のコードでつるすタイプのは、鎖と金具で数か所留める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで留めておく。

● 住宅用火災警報器

煙や熱を感知すると警報音で知らせる。家庭でも設置が義務付けられている。

● カーテン

防災加工されたものを使う。

● 窓ガラス

飛散防止フィルムを屋内側に貼る。

● 暖房器具

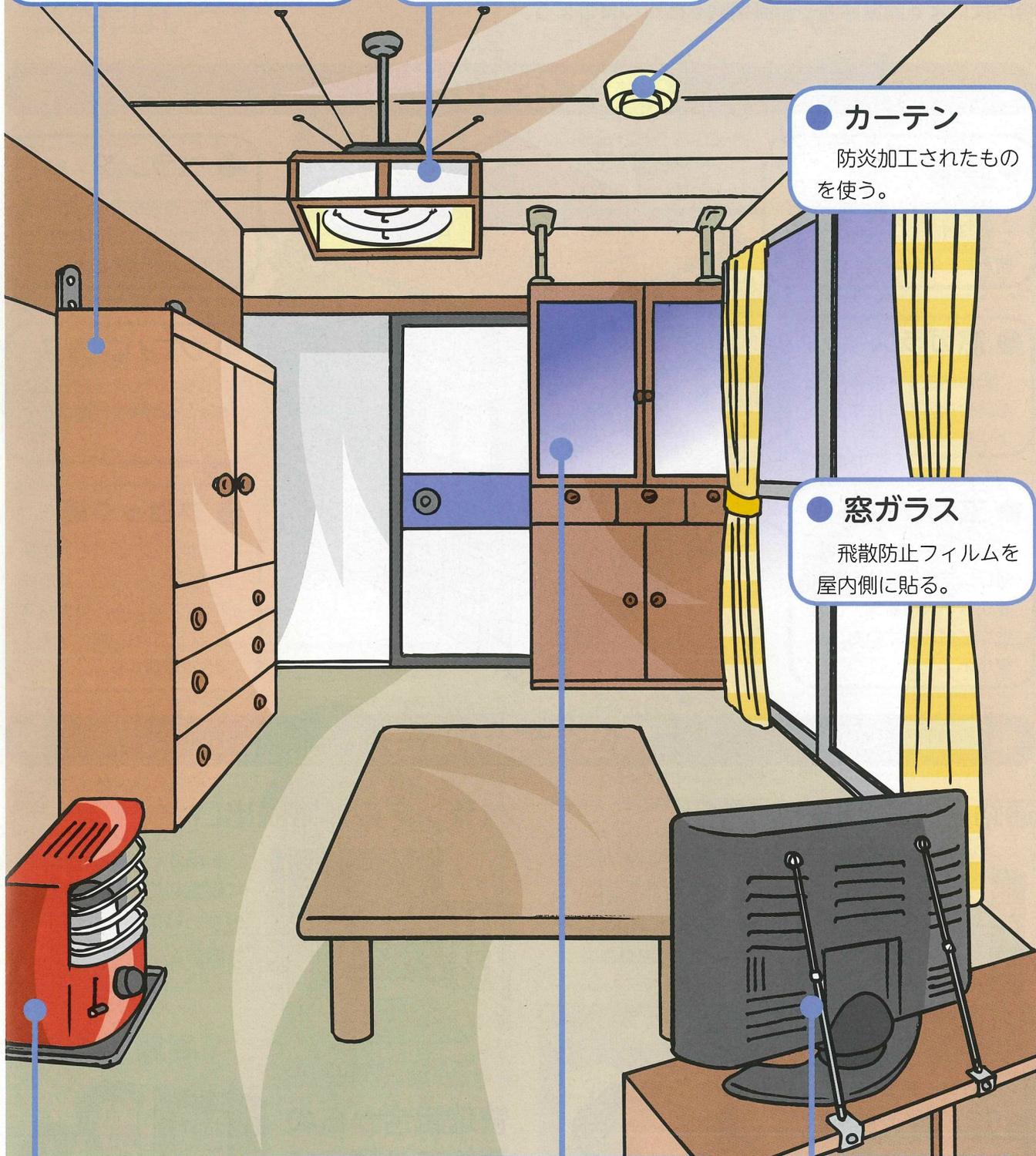
対震自動消火機能のあるものを使う。

● 食器棚

扉には開放防止金具をつける。棚板にはすべり止めシートを敷いたり、枠を設置したりして食器の飛び出しを防ぐ。ガラスに飛散防止フィルムを貼る。

● テレビ

できるだけ低い位置に置き、金具やロープ、耐震マットなどで固定する。



家の周囲の安全対策

家の周囲に地震発生時に危険な個所がないか点検しましょう。建物の耐震性も確認し、気になる場合は専門家による耐震診断や耐震補強を検討しましょう。

戸建て住宅の場合

● 屋根

屋根瓦やアンテナが不安定になっていないか確認し、問題がある場合は補強する。

● 窓ガラス

飛散防止フィルムを貼る。強化ガラスにするとより安全になる。

● 玄関まわり

自転車や植木鉢など、通行に支障となるものは置かない。古新聞・古雑誌など燃えやすいものも置かない。

● ベランダ

常に整理整頓し、落下する危険があるものは配置を変えるか固定する。

● プロパンガス

しっかりした土台の上に置き、鎖で壁面に固定しておく。

● ブロック塀

土中にしっかりとした基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは補強する。ひび割れや傾きがある場合は修理する。

集合住宅の場合

通路・非常階段・非常口



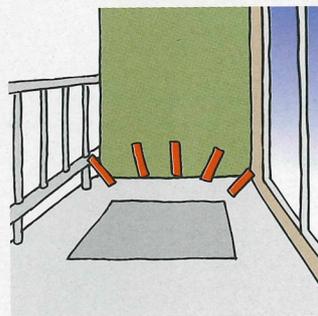
いざというとき安全に避難できるように、通行の妨げになるようなものを置かない。

防災・防火設備

共用部分に置いてある消火器や火災報知器などの場所を日頃から確認しておく。



ベランダの非常脱出口



日頃から使用方法をよく確認しておく。避難口のみわりにものを置くのは厳禁。

管理組合からの連絡に注意

防災設備の点検や防災訓練のお知らせなど、管理組合からの連絡には日頃から注意する。

